

教科(科目)	国語(現代の国語)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年(普通科)
使用教科書	教研出版『高等学校 現代の国語』				
副教材等	教研出版『現代の国語準拠ワーク』、いっぴな書店『入試頻出漢字+現代文重要語彙TOP2500』 いっぴな書店『思考のプロセスを大切に現代文1』				

1 学習目標

- 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
- 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
 - 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
 - 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

2 指導の重点

- 進学・就職等進路が多岐にわたっていることから、
- 基本的な言語事項の習得を重視し、実社会に必要な国語の知識や技能の習得を目指します。
 - 多くの文章に触れ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことを目指します。
また、他者との関わりの中で伝え合う力や自分の思いや考えを深める力を伸ばすことを目指します。
 - 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに創造したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、ことばが持つ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	社会と文化	6 「A 話すこと・聞くこと」	「コミュニケーション能力とは何か」 内田樹	・ 意思疎通の難しさを自身の体験で具体化する。 ・ 文字化した体験をプレゼンテーションする。 ・ 比喩と抽象的表現になれる。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
5	社会と文化	5 「B 書くこと」	「水の東西」 山崎正和	・ キーワードを図式化する。 ・ 図式化した個々の作業を班活動でまとめ発表する。 ・ 大きなつながりで論全体を把握する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
6	新しい視点	6 「B 書くこと」	「わらしべ長者の経済学」 梶井厚志	・ 意味段落の具体例を班でまとめる。 ・ 物質的価値について意見文を推敲する。 ・ 比喩と主張の的確につかむ。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

		7 「C 読むこと」	「ポスト・ブライバシー」 阪本俊生	・インターネット社会の功罪を客観視する。 ・主張の展開をとらえる。 ・アイデンティティについて記述する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
9		7 「A 話すこと・聞くこと」	「政治的思考」 杉田敦	・本音と建前について班活動で討論する。 ・総論賛成、各論反対の現実を体験的に認識する。 ・難解な用語を通して論旨をつかみ主張を迫る。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
10	ことばのはたらき	4 「B 書くこと」	「ものとことば」 山田孝夫	・本文の展開を話し合う。 ・本文の展開を図式化して発表する。 ・キーワードを土台に論旨を迫りかける。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
		4 「B 書くこと」	「知識のシステムをつくる」 今井むつみ	・具体的な事例を身近な話題から考察する。 ・話し合いの内容を班の間で補足し合いまとめる。 ・抽象的な枠組みを具体化して読み取る。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
11	人間と時間	6 「C 読むこと」	「時間と自由の関係について」 内山節	・思考ツールで主張を整理する。 ・思考ツールと自身の振り返りを照合して記述する。 ・対比を読み解き、通時的な世界観を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
12	認知の枠組み	5 「B 書くこと」	「浪費を妨げる社会」 國分功一郎	・辞書的な語彙と本文での用語例を整理する。 ・条件と結果を考え、自身の価値観を記述する。 ・経済的視点から述べられる社会論を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
1		7 「A 話すこと・聞くこと」	「他者を理解するということ」 鷺田清一	・論の展開を意味段落ごとに把握する。 ・意味段落にそれぞれある具体例について、自分の体験を発表する。 ・筆者の主張について、班活動で討論する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
2	環境と科学	5 「B 書くこと」	「科学コミュニケーション」 岸田一隆	・文系と理系に関する筆者の意見について整理する。 ・筆者の主張に対する意見文を書く。 ・対比を通して筆者の主張を読み取っていく。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
3	実用の文章	2 「C 読むこと」	「非言語コミュニケーション」 末田清子	・文章と図を読み取り、発表する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

計64時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「話すこと・聞くこと」 20 時間	B 「書くこと」 29 時間	C 「読むこと」 15 時間
-----------------	------------------------	-------------------	-------------------

6 課題・提出物等

- ・週一度の朝学習課題と週末の自宅学習課題に取り組み、週の始めに課題を提出し点検を受けます。
- ・毎週一度、授業時間内で小テストを行い、基礎基本の授業内容の徹底と復習を図ります。
- ・単元の内容により、グループ活動・レポートを設定します。
- ・長期休業中の課題と休み明けの課題テストについては別途指示します。

7 担当者からの一言

- ・相手の述べていることをよく聞き、読むことで正確に理解できるようになること、その上でそれらと自分の感じ方を比べたり、自己の考えを深めたりすること、そして、他人に共感してもらえる表現の力を身につけること。地道に努力してその力を付けていきましょう。
- ・授業等で扱うものに限らず、さまざまなジャンルの文章を数多く読むようにしてください。(担当：目黒 陽子)

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年(普通科)
使用教科書	教研出版『高等学校 言語文化』				
副教材等	尚文出版『学ぶぞ 古文と漢文』、京都書房『ポイント書く書くマスター-古典1 二訂版』 いっずな書店『みるみる覚える単語300+敬語30』				

1 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばす。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深める。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 指導の重点

進学・就職等進路が多岐にわたっていることから、

- ①基本的な言語事項の習得を重視し、我が国の言語文化に対する知識や技能の習得を目指します。
- ②多くの作品に触れ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすことを目指します。
また、他者との関わりの中で伝え合う力や自分の思いや考えを深める力を伸ばすことを目指します。
- ③言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養うことを目指します。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	古文の世界を楽しむ	10 「B 読むこと」	「検非違使忠明」 古文チェックポイント [1][2]	・ 古文と現代文の違いについて確認する。 ・ 歴史的仮名遣いについて確認する。 ・ 語について理解する。 ・ 用言の活用について理解する	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
5	現代にも生きる教え	8 「B 読むこと」	「ある人、弓射ることを習ふに」	・ 作者の意図の内容を理解する。 ・ 本文中の用言の活用について理解する	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
6	日本語の中に生きる漢文	6 「B 読むこと」	入門一 入門二、漢文チェックポイント [1][2]	・ 漢文の基本構造を理解し、訓読法に慣れる。 ・ 格言を音読し、返り点の用法を理解する。 ・ 再読文字の用法を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	故事と成語	5 「B 読むこと」	狐借虎威	・ 音読し、再読文字に注意して書き下し文にする。 ・ 現代日本語における漢文由来の故事成語の由来を調べる。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

7	読み継がれる歴史	5 「B 読むこと」	鶏口牛後	・句法に注意して音読、書き下し文にする。 ・現代語訳をして内容を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	受け継がれる古文	8 「A 書くこと」	羅生門	・登場人物の心情を読み取る。 ・意見文を書く。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
9	仮名日記文学の原点	6 「B 読むこと」	門出、帰京、古文フェックポ イト [5]	・本文と関連する古典常識について調べる。 ・語句を確認する。助動詞を理解する。 ・内容に注意して現代語訳する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
10	和歌による心の交流	5 「B 読むこと」	芥川	・歌物語の特徴を理解する。 ・和歌の物語の中での重要な役割を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	漢詩のことは	5 「B 読むこと」	漢詩	・詩の形式、きまりを理解する。 ・内容を理解し、日本文化と中国文化の類似点や相違点を考察する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
11	平安宮廷文学の世界	5 「B 読むこと」	ありがたきもの、雪のいと高う降りたるを	・敬語表現を確認し、理解する。 ・登場人物の行動について、多様な価値観から評価する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	論説の文章	6 「B 読むこと」	雑説	・句法に注意して音読、書き下し文にする。 ・現代語訳をして内容を理解する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
12	詩歌の系譜	5 「B 読むこと」	『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』	・それぞれの和歌集の特徴を理解する。 ・修辭法に注意して和歌を鑑賞する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
1		7 「B 読むこと」	短歌 俳句 詩	・古典詩から現代詩の流れを学ぶ。 ・自分で俳句を作り、クラスで句会を開催する。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	語感を磨く	2「A 書くこと」	側転と三夏	・作品の内容を踏まえて、題名に込められた意味を話し合う。 ・鑑賞文を書く。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
	探究の扉	2「A 書くこと」	春や春	・俳句を作品内に取り入れることによる効果を考える。 ・鑑賞文を書く。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
2	戦乱下の間像	8 「B 読むこと」	木曾の最期	・敬語表現を再確認し、理解する。 ・登場人物の行動や心情について分析し、話し合う。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子
3	記録する文学	3 「B 読むこと」	沖縄の手記から	・近現代に書かれた戦争文学の背景や舞台を調べる。 ・「私」の心情を説明文に綴る。	a b c	ワークシート ワークシート 学習活動の様子

計96時間 (55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「書くこと」 12 時間	B 「読むこと」 84 時間
-----------------	-------------------	-------------------

6 課題・提出物等

- ・週一度の朝学習課題と週末の自宅学習課題に取り組み、週の始めに課題を提出し点検を受けます。
- ・毎週一度、授業時間内で小テストを行い、基礎基本の授業内容の徹底と復習を図ります。
- ・単元の内容により、グループ活動・レポートを設定します。
- ・長期休業中の課題と休み明けの課題テストについては別途指示します。

7 担当者からの一言

- ・古典の基本は音読です。リズムよく読めるようになるまで繰り返し声に出して本文を音読しましょう。
- ・必ず予習をして授業に臨んで下さい。
- ・現代語とは異なる意味を持つ単語や文法事項など、覚えるべきことは、副教材や小テストを活用して確実に覚えるようにしましょう。(担当：目黒 陽子)

教科(科目)	地歴公民(歴史総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』				
副教材等	浜島書店『新詳歴史総合』 啓隆社『新歴史総合研究ノート』				

1 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそれの中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて
基礎的・基本的な事項の正確な理解を重視し、日常的に年表や図表を用いて日本と世界の歴史的な事象の時間的な推移の習得を目指す。

②思考力・判断力・表現力などの育成に向けて
学習した内容をもとにして、その背景や今日に与えた影響などを考察し、自らの意見を記述あるいは議論する。

③学びに向かう力の涵養に向けて
現代の世界の実情を理解し、グローバル化する社会で主体的に生きるため、グループ学習などを通じて主体性・興味・関心を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の展開についての基本的な事柄をグローバル的視野に立って統合的に理解し、その知識を身に付けている。歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代の歴史の展開から課題を見出し、グローバル的視野に立って多面的・多角的に考察し、世界の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断しようとしている。	近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	近現代の歴史の展開についての基本的な事柄をグローバル的視野に立って統合的に理解し、その知識を身に付けている。歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して、歴史的な事象を追究する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代の歴史の展開から課題を見出し、グローバル的視野に立って多面的・多角的に考察し、世界の文化と伝統の特色についての認識を深めるとともに、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断しようとしている。	近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価基準・評価方法
4	第Ⅰ部 近代化と私たち	12	第1章 結びつく世界	・科目の導入として、資料と歴史叙述の関わりについて理解します。	
5			第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・近代化に伴う生活変化を考察するなかで、興味・関心・疑問などの問いを表現する学習をします。	a 定期テスト
6			第3章 明治維新と日本の立憲体制	・生徒が課題を設定し、同時代の人々がどのように対応したのかを資料を活用して考察します。	b・c ワークシート発表
7	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	30	第4章 帝国主義の展開とアジア	・現代の諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解します。	a 定期テスト
8			第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解します。	b・c ワークシート発表
9			第6章 経済危機と第二次世界大戦	・国際協調体制の動揺、第二次世界大戦の惨禍、戦後国際秩序の再建について理解します。	a 定期テスト
10	第Ⅲ部 グローバル化と私たち	22	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	・生徒が課題を設定し、同時代の人々がどのように対応したのかを資料を活用して考察します。	a 定期テスト
11			第8章 冷戦と世界経済	・地域紛争、冷戦、第三世界の台頭、欧米や社会主義国家の政策転換など、国際政治の変容を理解します。	b・c ワークシート発表
12			第9章 グローバル化する世界	・世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉えることで、グローバル化の歴史を理解します。	a 定期テスト b・c レポート発表
1				・科目のまとめとして、生徒自らが設定した主題に基づいて資料を活用して探究し、現代的な諸課題を理解します。	

計64時間(55分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 年間5回の定期テストがあります。
- ・ 学期ごとに、授業ノートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

「歴史総合」は、18世紀から現在までの近現代史を扱い、およそ300年にわたる「世界のなかの日本」について学ぶことを目的としています。グローバル化が叫ばれる今日、私たちは世界の人々と理解しあい、平和に共生・共存していかなければなりません。世界の人々を理解するために、世界と日本の関わりを学ぶことがどうしても必要なのです。「地理総合」と併せて、世界への視点を皆さんが大きく広げる材料としてください。

(担当：大久保 義宏)

教科(科目)	地歴公民(地理総合)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	帝国書院『高等学校 新地理総合』		帝国書院『新詳高等地図』		
副教材等	第一学習社『コネクト 地理総合』		帝国書院『新地理総合ノート』		

1 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて

基礎的・基本的な事項から正確な理解を図るとともに、日常的に地図を用いて分布など地理的事象の空間的広がり の把握を促す。

②思考力・判断力・表現力等の育成に向けて

学習した事項を踏まえ、その背景やそれがもたらす影響などを考察し、意見の記述や議論する活動を行う。

③学びに向かう力の涵養に向けて

現代の世界の実情を理解しグローバル化する社会で主体的に生きるため、グループ学習等を通じ主体性や興味・関心を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追求する技能を身に付けるとともに、追求した過程や結果を適切に表現している。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化も踏まえて公正に判断している。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。 地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追求する技能を身に付けるとともに、追求した過程や結果を適切に表現している。	現代世界の地理的事象から課題を見いだし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化も踏まえて公正に判断している。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法						
4	・地図でとらえる 現代世界	6	・地図と 地理情報 システム	・世界各地における, 太陽高度や昼夜の時間 の季節変化と, 標準時を確認し, 緯度や経 度との関係について考えます。	a	定期テスト						
・時差を利用したグローバルな活動の例を 把握します。				a	定期テスト							
・地球儀上で方位や距離を計測し, さまざま な世界地図での描かれ方と比較することで, 世界地図の特徴を考えます。				b、c	ワークシート							
5	・国際理解と国際 協力	30	・生活文 化の多様 性と国際 理解	・グローバル化の具体的な事象を通して, 利 点と課題を考察します。	c	ワークシート 発表						
・写真や地図を用いて様々な地形とその利 用について理解します。				a	定期テスト							
・写真や雨温図を用いて様々な気候と人々 の生活について理解します。				a	定期テスト							
7	・持続可能な地域 づくりと私たち	10	・自然環 境と防災	・写真や具体例を用いて世界の文化とその 多様性を理解します。	a	定期テスト						
・写真や主題図を用いて世界の産業と人々 の生活について理解します。				a	定期テスト							
・地球的課題の解決へ向けてのさまざまな 国際的取り組みとその課題を整理します。				b	ワークシート							
8	・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・自然環 境と防災	・持続可能な社会の実現へ向けての世界各 地での取り組みの事例について考察します。	c	ワークシート、 発表						
・日本列島の地帯構造とプレートの境目の 主題図を用いて, 日本の地形の特性につ いて考察します。				a	定期テスト							
・地形の特性と自然災害との関係性につ いて, 主題図や衛星画像などを用いて考察 します。				b	ワークシート							
9	・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・生活圏 の調査と 地域の展 望	・防災・減災へ向けた各地域における取り組 みについて, 自助・共助・公助の観点から 写真を用いて考察します。	c	ワークシート、 発表						
10				・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・生活圏 の調査と 地域の展 望	・防災・減災へ向けた各地域における取り組 みについて, 自助・共助・公助の観点から 写真を用いて考察します。	c	ワークシート、 発表			
11										・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・生活圏 の調査と 地域の展 望
12	・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・生活圏 の調査と 地域の展 望									
1				・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・生活圏 の調査と 地域の展 望	・防災・減災へ向けた各地域における取り組 みについて, 自助・共助・公助の観点から 写真を用いて考察します。	c	ワークシート、 発表			
2										・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・生活圏 の調査と 地域の展 望
3	・生活圏 の調査と 地域の展 望	6	・生活圏 の調査と 地域の展 望									

計64時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 定期テストを実施します（1学期中間・期末、2学期中間・期末、学年末）。
- ・ 学期ごとに、ノートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

世界のグローバル化がさげばれる中で、これからの世代を担っていくみなさんには国際社会の変化に対応するスキルが求められます。自然環境、産業、人口問題、都市問題、民族紛争など世界で起こっている様々なことに目を向け、世界的な視野を持った大人になってほしいと思います。世界とつながるこの科目でみなさんのもつ世界をひろげましょう。

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
地理歴史	地理B	全日制普通科 3学年・理系	3
教科書	[主たる教材] 『新編詳解地理B改訂版』(二宮書店) 『詳解現代地図』(二宮書店)		
副教材等	[副教材] 『最新地理図表GEO』(第一学習社) 啓隆社「サクシード地理」		

1 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ① 知識、技能の習得に向けて
基礎的・基本的な事項から正確な理解を図るとともに、日常的に地図を用いて分布など地理的事象の空間的広がり
の把握を促す。
- ② 思考力・判断力・表現力等の育成に向けて
学習した事項を踏まえ、その背景やそれがもたらす影響などを考察し、意見の記述や議論する活動を行う。
- ② 学びに向かう力の涵養に向けて
現代の世界の実情を理解しグローバル化する社会で主体的に生きるため、グループ学習等を通じ主体性や興味・関
心を養う。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動 (指導内容)	時間	評価方法
4	現代世界の地誌的考察	第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域	第1節中国 第2節韓国	6 1	授業の取組
5	現代世界の地誌的考察		第3節東南アジア 第4節インド 定期テスト	7 7	授業の取組 定期テスト 授業ノート提出
			第5節西アジア中央アジア	7	授業の取組
6	現代世界の地誌的考察		第6節アフリカ 第7節EU 定期テスト	7 8	授業の取組 定期テスト 授業ノート提出
7	現代世界の地誌的考察		第8節ドイツ・ポーランド	7	授業の取組
9	現代世界の地誌的考察		第9節ロシア 第10節アメリカ 定期テスト	7 8	授業の取組 定期テスト 授業ノート提出

10	現代世界の地誌的考察		地図と地域調査 第11節 ブラジル 第12節 オーストラリアとカナダ	2 7 7	実習の取組 授業の取組
11	現代世界の地誌的考察		地球環境問題（グループワーク、発表） 定期テスト	4	授業の取組 定期テスト 授業ノート提出
12		テーマ学習	地球環境問題、グループワーク、発表	1	授業の取組
1		テーマ学習	地誌学習、グループワーク、発表	10	授業の取組
2					
3					

計 9 6 時間（55 分授業）

4 課題・提出物等

- ・ 考査ごとに授業ノートの提出があります。
- ・ 授業中の活動や作業、グループワーク等も予定しています。
- ・ 長期休業中の課題を課すこともあります。
- ・ 10月にディベート大会を行います。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化も踏まえて公正に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追求する技能を身につけるとともに、追求した課程や結果を適切に表現する。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追求の方法を理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・ 授業の取り組み（日常的な授業態度、発表の様子、学習活動の参加状況など） ・ 各種提出物（授業ノート、課題） ・ 定期テスト などから総合的に評価します			

6 担当者からの一言

世界のグローバル化がさけられる中で、これからの世代を担っていく皆さんには国際社会の変化に対応するスキルが求められます。自然環境、産業、人口問題、都市問題、民族紛争など世界で起こっている様々なことに目を向け、世界的な視野を持った大人になってほしいと思います。世界と繋がるこの科目で、皆さんの持っている世界を広げましょう。地理の学習は、必ず皆さんの将来を手助けして、人生を豊かなものとしてくれるでしょう。（担当：羽賀信幸）

教科(科目)	地歴公民(公共)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版社『公共』				
副教材等	とうほう『フォーラム公共』 とうほう『ニューコンパスノート公共』				

1 学習目標

- 1 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 2 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- 3 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的な空間に生き国民を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 指導の重点

- ① 知識・技能の習得に向けて
基礎的・基本的な事項の正確な理解を重視し、日常的に現実即した資料を用いて現実の諸課題についてその問題解決を図るために必要な知識・技能を習得する。
- ② 思考力・判断力・表現力などの育成に向けて
学習した内容をもとにして、その背景や今日に与えた影響などを考察し、自らの意見を記述あるいは議論する。
- ③ 学びに向かう力の涵養に向けて
現代の世界の実情を理解し、グローバル化する社会で主体的に生きるため、グループ学習などを通じて主体性・興味・関心を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現実社会の諸課題について必要な知識を習得している。	現実社会の諸課題について問題を見だし、協力的に考察・構想し、それらを適切に表現できている。	よりよい社会の実現を視野に、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ 授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・ 振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価基準・評価方法		
4	第1部 公共の扉	20	第1章 社会を作る 私たち	・自らの体験などを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解します。	a 定期テスト		
5			第2章 人間として よく生きる	・社会生活を考察するなかで、興味・関心・疑問などの問いを表現する学習をします。	b・c ワークシート 発表		
6			第3章 他者とともに 生きる	・民主社会に生きる人間としての在り方生き方について考察します。	a 定期テスト		
7			第4章 民主社会の 倫理	・民主社会と公共における倫理のあり方について理解します。	b・c ワークシート 発表		
8			第5章 民主国家に おける基本原理	・日本国憲法の基本的原則と政治機構、民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解します。	a 定期テスト		
9				・生徒が課題を設定し、同時代の人々がどのように対応したのかを資料を活用して考察します。	b・c ワークシート 発表		
10			第2部 よりよい社会の 形成に参加する 私たち	36	第1章 日本国憲法 の基本的性格	・市場経済の意義と機能やその限界、財政、租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動が国民福祉の向上とどのような関連があるのかを考察する。	a 定期テスト
11					第2章 日本の政治 機構と政治参加	・国際社会における経済的課題への日本の役割について理解します。	b・c ワークシート 発表
12					第3章 現代の経済 社会	・今までの学習活動を踏まえ、現実社会における課題について探究し、理解を深め、持続可能な社会を生きる自覚を養います。	a 定期テスト
1	第4章 日本経済の 特質と国民生活				b・c レポート 発表		
2	第3部 持続可能な社会 づくりの主体と なる私たち	8	第5章 国際政治の 動向と課題				
3			第6章 国際経済の 動向と課題				

計64時間(55分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 年間5回の定期テストがあります。
- ・ 学期ごとに、授業ノートを提出することとなります。
- ・ 長期休業中の課題は別途指示します。

7 担当者からの一言

「公共」は、選択・判断の手掛かりとなる考え方などを活用して現代社会の諸課題に関わる問いを立て、協働的な探究学習をおこなうことが目指されています。現実社会の抱えているさまざまな諸課題を主権者教育の観点を踏まえて未来をつくるという見方で自分自身の問題としてその問題解決を考えていってほしいと思います。また、グローバル化が叫ばれる今日、私たちは世界の人々と理解しあい、平和に共生・共存していかなければなりません。世界の人々を理解するために、世界と日本の関わりを学ぶことがどうしても必要なのです。この2点について絶えず意識して学んでいってください。

(担当：中村 剛)

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
公民	倫理	普通科・3年文系	2
教科書 副教材等	[主たる教材]『高等学校 新倫理 新訂版』(清水書院) [副教材]『テオリア 最新倫理資料集 新版四訂』(第一学習社) 『パスポート 倫理問題集新訂第4版』(清水書院)		

1 学習目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①知識・技能の習得に向けて
自己の生きる課題を解決に導けるような知識・技能の習得
- ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて
グループ学習やプレゼンテーション等を通じ、習得した知識・技能を活用し、倫理的課題を自己の課題つなげて考えていく上で必要な論理的思考力や表現力の育成
- ③学びに向かう力の涵養に向けて
他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力の育成

3 学習計画

月	単 元 名 / 教 材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4月	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教－愛の宗教 第2節 イスラーム－啓示戒律の宗教 第3節 仏教－智慧と慈悲の宗教 第3章 人生の知恵 第4章 人生における芸術 第3編 現代社会と倫理	・青年期の意義と課題を理解し、豊かな自己の生き方について考える。 ・先哲の基本的な考え方を手がかりとして、人間の存在や価値について思索を深める。 ・現代に生きる人間の倫理的課題について思索を深める。		定期テスト 授業の取り組み
7月	第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳 第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり 第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福 第5節 個人と社会のかかわり 第6節 現代における理性の問題		25	定期テスト 授業の取り組み

8月	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 第3節 儒教の日本化 第4節 日本文化と国学 第5節 近世庶民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 第2章 現代の日本と日本人としての自覚	・日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について、我が国の風土や伝統、外来思想の受容に触れながら自己とのかかわりにおいて理解する。 ・国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について自覚を深める。 ・現代に生きる人間の倫理的課題についてグループ学習を通して思索を深め、自己の生き方の確立を目指す。		定期テスト 授業の取り組み
12月	第5編 現代の諸課題と倫理 第1章 生命と倫理 第2章 環境と倫理 第3章 現代の家族とその課題 第4章 地域社会の変容と共生 第5章 情報社会とその課題 第6章 グローバル化の時代と倫理 第7章 人類の福祉と国際平和		3 5	定期テスト 授業の取り組み
3月	テーマ別課題学習		4	

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

- ・各単元にワークシートやレポート作成の時間を設定しています。
- ・夏季休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとしている。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己の形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格形成に生かす知識として身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など） ・提出物などの内容 ・定期テスト などから総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

「倫理」で扱う内容は、社会や人々との関係において、人としての在り方生き方に関わるものがほとんどです。だからこそ、授業をとおして「自分ならどうするか、どう行動するか」ということを意識しながら学習に取り組みましょう。また、「考える」ためには先人の思想を学ぶだけではなく、他者の意見や考えを参考にしたり、自分の意見を他者に理解してもらうことも大切です。他者と共に生きる主体として、一緒に学びを深めていきましょう。

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
公民	現代社会	普通科・3学年・理系必修	2
教科書	[主たる教材] 高校現代社会 新訂版 実教出版		
副教材等	[副教材] フォーラム現代社会 (とうほう) ニューコンパスノート現代社会 (とうほう)		

1 学習目標

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 指導の重点

- ①知識・技能の習得に向けて
現代社会の基本的な問題について理解し、良識ある公民として行動することができるための知識の定着
- ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて
現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断し、適切な方法で表現することのできる力の育成
- ③学びに向かう力の涵養に向けて
現代社会を生きるための、良識ある公民として必要な能力と態度の育成

3 学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4月 5月	第1編 現代社会の諸課題 第1章 地球環境を考える 第2章 科学技術の発達と生命	・環境や生命に関わる諸問題を考察することを通して、社会のあり方を考察する。	5	定期テスト 授業の取り組み
5月 6月 7月	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 青年期と自己形成 第2章 他者と共に生きる倫理 第3章 現代の国家と民主政治	・青年期が心理的、社会的な自立を遂げていく重要な時期であることを理解する。 ・民主政治の基本原則に基づきながら、社会参加の重要性について理解する。	20	定期テスト 授業の取り組み
8月 9月 10月	第4章 日本国憲法と国民生活 第5章 国際政治の動向 第6章 現代の経済社会と政府の役割	・日本国憲法の基本的原則と政治機構、民主政治における世論形成と指示参加の意義について理解する。 ・民主社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。	24	定期テスト 授業の取り組み
11月 12月	第7章 経済活動のあり方と国民福祉 第8章 国際経済の動向	・市場経済の意義と機能やその限界、財政、租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動が国民福祉の向上とどのような関連があるのか考察する。	10	定期テスト 授業の取り組み
1月	第3編 共に生きる社会をめざして	・今までの学習活動を踏まえ、現代社会における課題について探究し、理解を深める。	5	ワークシート

計 64 時間 (55 分授業)

4 課題・提出物等

- ・各単元ごとにワークシートの時間を設定しています。
- ・夏季休業中の課題は別途指示します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立っ多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付けている。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方とに関わる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none">・授業の取り組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など）・提出物などの内容・定期テスト などから総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

現代の社会を、政治・経済・国際社会・倫理・文化といった多様な角度から理解することで、自分との関わりを意識しながらこれからの生き方も考える、そんな時間にして欲しいと願っています。

教科（科目）	数学 I	3 単位	1 学年
使用教科書	数研出版「高等学校 数学 I」		
副教材等	問題集「47° plus 数学 I + A（数研出版）」 参考書「チャート式基礎からの数学 I + A（数研出版）」		

1 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

(3) 数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 指導の重点

- (1) 基礎的・基本的な知識の習得及び基礎的・基本的な計算ができるようになること。
- (2) 既習の知識を活用してその理由を考察するとともに、それを適切に表現し、処理できるようになること。
- (3) 学習を改善しながら、発展的な問題に応用しようとする姿勢とその力を培うこと。

3 評価の観点の趣旨・評価規準・評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	式を適切に変形する力、図形について考察し表現する力、事象を表現してその特徴を関連付けて考察する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。	数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を身につけている。
評価方法	・定期考査(A)・課題考査(B) ・小テスト(C) などから評価します。	・定期考査・課題考査 ・小テスト などから評価します。	・課題の提出状況(D) ・振り返りシートの記述(E) などから評価します。

4 学習計画

月	授業時数	学習内容	評価の観点	評価方法
4	8	第1章 数と式 1 多項式 2 多項式の計算 3 因数分解	abc	a, b: A, B, C c: D, E
5	10	1 学期中間考査 4. 実数 5. 無理数の計算 6 1次不等式	abc	a, b: A, B, C c: D, E
6	10	7 1次不等式の応用 第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件 3 命題と証明	abc	a, b: A, B, C c: D, E
7	8	1 学期期末考査 第3章 2次関数 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	abc	a, b: A, B, C c: D, E

8	3	3 最大・最小	abc	a, b:A, B, C c:D, E
9	10	4 2次関数の決定 5 2次方程式 6 グラフと2次方程式 7 グラフと2次不等式 2学期中間考査	abc	a, b:A, B, C c:D, E
10	10	第4章 三角比 1 三角比 2 相互関係 3 拡張	abc	a, b:A, B, C c:D, E
11	10	4 正弦定理 5 余弦定理 6 応用 2学期期末考査	abc	a, b:A, B, C c:D, E
12	8	7 三角形の面積 8 空間図形への応用	abc	a, b:A, B, C c:D, E
1	8	第5章 データの分析 1 データの整理 2 代表値 3 四分位数	abc	a, b:A, B, C c:D, E
2	8	4 分散と標準偏差 5 相関関係 学年末考査	abc	a, b:A, B, C c:D, E
3	3	6 仮説検定 課題学習	abc	a, b:A, B, C c:D, E

計 96 時間 (55分授業)

5 課題・提出物等

- ・各週の初めに小テストがあります。範囲は、前の週までの約1週間分の内容です。
- ・課題の提出の際には、振り返りシートを記入して、各自の学習で不足していた点を把握し、改善に役立ててください。

6 担当者からの言葉

「数学Ⅰ」は、高校数学の基礎となるとても重要な科目です。大学入試においても文系・理系を問わず、共通テストにおいて受験が課されています。「数学Ⅰ」をしっかり学習することが、自己の進路実現につながるはずです。授業を大切にしましょう。自ら積極的に考えることが大切です。内容は中学校よりも範囲が広く高度になっています。それゆえ、毎日の家庭学習は不可欠です。授業の内容を復習し、理解を確認することが重要です。問題が解け、理解できたときの達成感が得られるよう、粘り強く頑張りましょう。

教科（科目）	数学A	2単位	1学年
使用教科書	数研出版「高等学校 数学A」		
副教材等	問題集「4プロズ 数学I+A（数研出版）」 参考書「チャート式基礎からの数学I+A（数研出版）」数研出版		

1 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 図形の性質を見だし、論理的に考察する力、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 指導の重点

- (1) 基礎的・基本的な知識の習得及び基礎的・基本的な計算ができるようになること。
- (2) 既習の知識を活用してその理由を考察するとともに、それを適切に表現し、処理できるようになること。
- (3) 学習を改善しながら、発展的な問題に応用しようとする姿勢とその力を培うこと。

3 評価の観点の趣旨・評価規準・評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけている。	式を適切に変形する力、図形について考察し表現する力、事象を表現してその特徴を関連付けて考察する力、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。	数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めようとする態度や創造性の基礎を身につけている。
評価方法	・定期考査(A)・課題考査(B) ・小テスト(C) などから評価します。	・定期考査・課題考査 ・小テスト などから評価します。	・課題の提出状況(D) ・振り返りシートの記述(E) などから評価します。

4 学習計画

月	授業時数	学習内容	評価の観点	評価方法
4	5	第1章 場合の数と確率 1 集合と要素の個数 2 場合の数	abc	a, b:A, B, C c:D, E
5	7	1学期中間考査 4 順列 5 組合せ 6 事象と確率	abc	a, b:A, B, C c:D, E
6	7	7 確率の基本性質 8 独立試行 9 反復試行 10 条件付き確率	abc	a, b:A, B, C c:D, E
7	6	1学期期末考査 11 期待値 第2章 図形の性質 1 三角形の辺と比	abc	a, b:A, B, C c:D, E

8	1	2 外心・内心・重心	abc	a, b:A, B, C c:D, E
9	7	3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 円と直線 2学期中間考査	abc	a, b:A, B, C c:D, E
10	8	6 方べきの定理 7 2円の関係 8 作図	abc	a, b:A, B, C c:D, E
11	8	9 直線と平面 10 多面体 2学期期末考査	abc	a, b:A, B, C c:D, E
12	5	第3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数	abc	a, b:A, B, C c:D, E
1	4	4 整数の割り算	abc	a, b:A, B, C c:D, E
2	4	5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式 学年末考査	abc	a, b:A, B, C c:D, E
3	2	7 記数法 課題学習	abc	a, b:A, B, C c:D, E

計 64 時間 (55分授業)

5 課題・提出物等

- ・各週の初めに小テストがあります。範囲は、前の週までの約1週間分の内容です。
- ・課題の提出の際には、振り返りシートを記入して、各自の学習で不足していた点を把握し、改善に役立ててください。

6 担当者からの言葉

「数学A」は、高校数学の基礎となるとても重要な科目です。大学入試においても文系・理系を問わず、共通テストにおいて受験が課されています。「数学A」をしっかり学習することが、自己の進路実現につながるはずです。

授業を大切にしましょう。自ら積極的に考えることが大切です。内容は中学校よりも範囲が広く高度になっています。それゆえ、毎日の家庭学習は不可欠です。授業の内容を復習し、理解を確認することが重要です。問題が解け、理解できたときの達成感が得られるよう、粘り強く頑張りましょう。

教科(科目)	理科(物理基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	東京書籍『改訂 物理基礎』				
副教材等	東京書籍『Let's Try Note物理基礎Vol.0数学編』、 『Let's Try Note物理基礎Vol.1力学編』、実教出版『ベストフィット物理基礎』				

1 学習目標

<p>物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>①教科書の例題や副教材の基本問題などを解きながら、教材の基本的な内容を理解し、基本的な技能を修得させる。</p> <p>②応用問題や記述形式の問題演習を通じて思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>③実験や作業、議論などにより自己分析力や協同する力を育てるとともに、身近な現象との関連を考察することを通して学びに向かう力を涵養する。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	物体の運動と様々なエネルギーから問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーを理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探求し、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見出して表現している。	物体の運動とエネルギーに主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ ペーパーテストの分析 ・ 観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・ レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 などから、評価します。		以上の観点を踏まえ、 ・ 課題等の提出状況 ・ 「振り返り」の記述 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法	
4	1編 物体の運動と エネルギー	2	1章 運動の表し方	1節 運動の表し方	a, b	上記の評価方法	
		1		2節 等速直線運動	a, b		
		2		3節 合成速度と相対速度	a, c		
		5		3	4節 直線運動の加速度		a, b, c
				3	5節 落体の運動		a, b, c
6	2編 さまざまな力と そのはたらき	3	2章 さまざまな力と そのはたらき	1節 力とつり合い	a, b, c	上記の評価方法	
		6		2節 運動の法則	a, b, c		
		4		3節 さまざまな運動とはたらく力	a, b, c		
7	3編 力学的エネルギー	2	3章 力学的エネルギー	1節 エネルギーと仕事	a, c	上記の評価方法	
		2		2節 運動エネルギーと位置エネルギー	a		
		2		3節 力学的エネルギーの保存	a, b, c		
		1		4節 力学的エネルギーが保存されない場合	a		
9	2編 さまざまな 物理現象と エネルギー	2	1章 熱	1節 温度と熱	a	2学期中間考査	
		2		2節 熱の移動と保存	a, b, c		
		2		3節 熱と仕事	a, c		
		1		4節 熱効率と不可逆変化	a		
10	3編 波	3	2章 波	1節 波を表す	a, b, c	上記の評価方法	
		3		2節 波の重ね合わせ	a, b		
		1		3節 音の性質	a		
11	4編 電気と磁気	2	3章 電気と磁気	4節 弦の固有振動	a, b, c	上記の評価方法	
		2		5節 気柱の固有振動	a, b, c		
12	5編 エネルギーと その利用	1	4章 エネルギーと その利用	1節 電流と電圧	a	2学期期末考査	
		3		2節 電気抵抗	a, b, c		
1	6編 電磁気	1	5章 電磁気	3節 抵抗の接続	a	上記の評価方法	
		1		4節 電気とエネルギー	a		
		2		5節 直流と交流	a, b		
2	7編 原子核と放射線	1	6章 原子核と放射線	6節 電磁波	a	上記の評価方法	
		1		1節 エネルギーの変換と保存	a		
		1		2節 原子核のエネルギー①	a, b		
3	8編 物理学が拓く世界	1	7章 物理学が拓く世界	3節 原子核のエネルギー②	a	3学期期末考査	
		2		4節 エネルギーの利用と課題	a, c		
		1		物理学が拓く世界	c		

計64時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

授業中に配布するワークシート , 実験レポート , 長期休業中の課題 等

7 担当者からの一言

- ・ 授業内容は、その授業内で理解するように努めること。
- ・ 授業で学んだことは、その日のうちに復習すること。
- ・ 問題集で多くの問題を解き、知識の定着と技能の修得に努めること。
- ・ 疑問や理解できなかった事柄はそのままにせず、積極的に質問すること。

教科(科目)	理科 (化学基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	第一学習社『高等学校 化学基礎』				
副教材等	第一学習社『新課程版 スクエア最新図説化学』、浜島書店『新編アクセス化学基礎』				

1 学習目標

<p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>① 教科書の例題や副教材の基本問題などを解きながら、教材の基本的な内容を理解し、基本的な技能を修得させる。</p> <p>② 応用問題や記述形式の問題演習を通じて思考力、判断力、表現力を育成する。</p> <p>③ 実験や作業、議論などにより自己分析力や協働する力を育てるとともに、身近な現象との関連を考察することを通して学びに向かう力を涵養する。</p>

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察・実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・課題等の提出状況 ・振り返りシートの記述などから評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 ～ 5	第Ⅰ章 物質の構成	9	第1節 物質の成分と構 成元素 第2節 原子の構造と元 素の周期表	①物質の成分 ②物質の構成元素 ③状態変化と熱運動 ①原子の構造 ②イオン ③元素の相互関係	a, b, c a, b a, b a, b, c a, b a, b	上記評価方法 1学期中間考査
5 ～ 7		1 2	第3節 物質と化学結合	①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	a, b a, b a, b, c a, b a, b, c	上記評価方法 1学期期末考査
7 ～ 10	第Ⅱ章 物質の変化	1 3	第1節 物質量と化学反 応式	①原子量・分子量と式量 ②物質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	a, b a, b a, b, c a, b a, b, c a, b	夏季休業中の課題テスト 上記評価方法 2学期中間考査
10 ～ 11		1 2	第2節 酸と塩基の反応	①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定	a, b a, b a, b a, b, c	上記評価方法 2学期期末考査
12 ～ 3		1 8	第3節 酸化還元反応	①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の精錬 ⑦電気分解	a, b a, b a, b, c a, b, c a, b, c a, b a, b, c	上記評価方法 学年末考査

計 64 時間 (55 分授業)

6 課題・提出物等

- ・休業中の課題
- ・実験レポート

など

7 担当者からの一言

- ・考えることは重要であるが、暗記することも重要である。(元素記号や化学式は暗記するまで何度も書く。)
- ・その日の授業はその日のうちに理解する。(理解できたかどうか、問題を解いてみることで確認する。)
- ・理解できないところは、すぐに授業担当に質問する。
- ・『知的好奇心』を大切に、『論理的思考力』や『創造力』をもって、身のまわりで起きていることを理解する

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	数研出版『生物基礎』				
副教材等	数研出版『新課程 フォトサイエンス 生物基礎』、数研出版『新課程 リードα 生物基礎』				

1 学習目標

<p>生物や生命現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生命現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次ぎのとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生命現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>① 教科書内容等の基本知識の確実に習得させること。</p> <p>② 副教材を用いて大学入試問題等の応用問題に触れ、進学に必要な学力を身につけさせること。</p> <p>③ 授業内容をふまえて身近な生物に関する事象をあげ、身の回りの自然に対する関心と生物学的に探究する能力を育てること。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生命現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生命現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生命現象についての基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	生物や生命現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	生物や生命現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験、式やグラフでの表現の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・課題等の提出状況 ・振り返りシートの記述などから評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	第1章 生物の特徴	4	第1節 生物の多様性と 共通性	①生物の多様性 ②生物の多様性・共通性とその由来 ③生物の共通性としての細胞	c	実習への取り組み
5		3	予備学習	①顕微鏡観察の基本操作 ②マイクロメーターによる測定		
		2	第2節 エネルギーと 代謝	①生命活動とエネルギー ②代謝とエネルギー ③ATP	a, b	1学期中間考査
		4	第3節 呼吸と光合成	①呼吸 ②光合成 ③エネルギーの流れ ④酵素	c	実習への取り組み
6	第2章 遺伝子とその はたらき	4	第1節 遺伝情報とDNA	①遺伝情報を含む物質-DNA ②DNAの構造	a, b	1学期期末考査
		4	第2節 遺伝情報の 複製と分配	①遺伝情報の複製 ②遺伝情報の分配		
7 8		6	第3節 遺伝情報の発現	①遺伝情報とタンパク質 ②タンパク質の合成 ③分化した細胞の遺伝子発現 ④遺伝情報と遺伝子, ゲノム	c	実習への取り組み
9 10	第3章 ヒトの体内環境 の維持	7	第1節 体内での情報 伝達と調節	①体内での情報伝達 ②神経系による情報の伝達と調節 ③内分泌系による情報の伝達と調節	a, b	2学期中間考査
		7	第2節 体内環境の維持 のしくみ	①体内環境の維持 ②血糖濃度の調節のしくみ ③血液の循環を維持するしくみ	c	実習への取り組み
11		7	第3節 免疫のはたらき	①からだを守るしくみ-免疫 ②自然免疫 ③適応免疫 ④免疫と病気	a, b	2学期期末考査
12 1 2	第4章 生物の多様性と 生態系	4	第1節 植生と遷移	①植生 ②植生の遷移	c	実習への取り組み
		4	第2節 植生の分布と バイオーム	①バイオームの成立 ②世界のバイオーム ③日本のバイオーム		
		4	第3節 生態系と生物の 多様性	①生態系の成りたち ②生態系と種多様性 ③生物どうしのつながり	a, b	学年末考査

3	第4章 生物の多様性と 生態系	4	第4節 生態系の バランスと保全	①生態系のバランス ②人間の活動と生態系 ③生態系の保全	a, b	ワークシート
---	-----------------------	---	------------------------	------------------------------------	------	--------

計 64 時間 (55 分授業)

6 課題・提出物等

主に,

- ・長期休暇中に与えられた課題
- ・実験の内容をまとめたレポート
- ・授業時に配付するプリント

など

7 担当者からの一言

自然事象を深く理解するためには、「ただ暗記するだけ」でも「何も暗記しない」でも充分ではありません。「思考・判断するために基本となる知識・法則を覚える事」と「知り得た知識・法則から考える事」の両方が必要なのです。さまざまな自然現象に対して、科学的に思考・判断することができる力を身に付けられるように努力しましょう。また、副教材等を用いて授業内容をさらに深く理解するように心がけてください。

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
保健体育	スポーツⅡ	普通科 3学年	2
教科書	[主たる教材] 現代高等保健体育(大修館書店)		
副教材等	[副教材] ステップアップ高校スポーツ2020(大修館書店)		

1 学習目標

球技の専門的な理解と高度な技能の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己に課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。

2 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて
各領域の「技術(技)の名称や行い方」、「体力の高め方」、「課題解決の方法」、「練習や発表の仕方」などの知識の理解のもとに運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習する。

②思考力、判断力、表現力の育成に向けて
体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断、体力や健康・安全に関する思考・判断、運動実践につながる態度に関する思考・判断、生涯スポーツの設計に関する思考・判断に加え、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題に解決に重点を置く。

③学びに向かう力の涵養に向けて
運動の楽しさや喜びを深く味わい、学習に対する主体的な取り組みを促すことによって、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、卒業後においても、実生活、実社会の中などで継続的なスポーツライフを営むことができるようにする。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習内容(指導内容)	時間	評価方法
4月 5月 6月 7月	球技	ネット型球技 ベースボール型球技 ゴール型球技 から選択	ネット型球技の理論と実践 (バドミントン、テニス、バレーボール、卓球) ゴール型球技の理論と実践 (サッカー、バスケットボール) ベースボール型球技の理論と実践 (ソフトボール)	20	各領域における ・合理的な練習方法や練習計画の立て方、審判法、初歩的な指導法などに関する知識 ・運動特性の理解度 ・技能の習熟度 ・スキルテスト ・安全への思考判断 ・関心、意欲、態度 ・積極性 などを総合的に判断し、評価する。
8月 9月 10月 11月 12月	球技	ネット型球技 ベースボール型球技 ゴール型球技 から選択	ネット型球技の理論と実践 (バドミントン、テニス、バレーボール、卓球) ゴール型球技の理論と実践 (サッカー、バスケットボール) ベースボール型球技の理論と実践 (ソフトボール)	26	
1月	球技	ネット型球技 ベースボール型球技 ゴール型球技 から選択	ネット型球技の理論と実践 (バドミントン、テニス、バレーボール、卓球) ゴール型球技の理論と実践 (サッカー、バスケットボール)	18	

			ベースボール型球技の理論と実践 (ソフトボール)		
--	--	--	-----------------------------	--	--

計 64 時間(55分授業)

4 課題・提出物等

人員報告や体育日誌の記入を行う体育当番を輪番で行います。事前に授業の場所や持ち物などの授業連絡をしたり、体育日誌を丁寧に記入することによって、授業の振り返りや次の授業への課題を明確にします。ケガや体調不良等で見学する場合は、見学レポートを毎時間ごとに詳しく記入します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技能(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の取組(授業態度、授業中の行動観察、学習活動への参加状況など) ・記録・ゲーム等の結果分析 ・スキルテスト などから、総合的に評価します。 			

6 担当者からの一言

最終学年として、1年次、2年次と積み重ねてきた土台に、各単元の技能や知識、判断能力などをさらに発展させましょう。特に主体性や協調性を高め、個人やグループでの活動を計画的に効率よく進めていくことを期待します。また、球技を通じて、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力、さらには健康の保持増進のための「実践力」を養っていきましょう。
(担当:高橋哲也)

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	大修館書店出版『現代高等保健体育』				
副教材等					

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて

ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用および社会生活における健康の保持増進について理解できるようにし、心身の健康の保持増進を図るための思考力・判断力などの資質や能力を育成する。

②思考力、判断力、表現力の育成に向けて

健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとする。そして、ホームルーム活動や学校行事などの特別活動および総合的な学習の時間などにおいて「保健」で身に付けた知識および資質や能力を生かして課題解決などに取り組むことができるようにする。

③学びに向かう力の涵養に向けて

健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けようとしている。	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けようとしている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の質疑応答の観察 ・課題の実施内容、ノートやレポートの内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・課題の実施内容、ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・課題の実施内容、ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析 などから、総合的に評価します。

5 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法
4	3単元 生涯を通じる健康	3	ライフステージと健康 思春期と健康	・ライフステージと健康の関連について ・各ライフステージで出来る社会からの支援 ・思春期における体の変化 ・新春期の心の発達と問題	c	発表の様子

5	8	性意識と性行動の選択	・性意識の男女差 ・性情報と行動選択	b	ワークシート
6		妊娠・出産と健康	・妊娠、出産の過程における健康課題 ・妊娠、出産期二活用できる母子保健サービス		
7		避妊法と人工妊娠中絶	・家族計画の意義と避妊法 ・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響		
8		結婚生活と健康	・心身の発達と結婚生活の関係 ・結婚生活を健康的に送るための考え方		
9	4	働くことと健康	・働くことの意義と健康とのかかわり ・働き方や働く人の健康課題の変化	b	ワークシート
10		労働災害と健康	・労働災害の種類とその原因 ・労働災害を防止するために必要なこと		
11		健康的な職業生活	・職場がおこなう健康に関する取り組み ・余暇を積極的にとることの意義		
12	4	大気汚染と健康	・大気汚染の原因と健康への影響 ・大気にかかわる地球規模の健康課題	b	ワークシート
1		水質汚濁、土壌汚染と健康	・水質汚濁、土壌汚染の原因と健康影響 ・大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染		
2		環境と健康にかかわる対策	・環境汚染による健康被害を防ぐ方法について ・産業廃棄物の処理について		
3	4	ゴミの処理と上下水道の整備	・ごみの処理の現状やその課題 ・上下水道のしくみと健康にかかわる課題	c	発表の様子
4		食品の安全性	・食品の安全性と健康とのかかわり ・食品の安全性に関する今日的課題		
5	3	食品衛生にかかわる活動	・食品の安全性を確保する社会の役割 ・食品の安全性を確保する個人の役割	a b	2学期末 考查ノート
6		保健サービスとその活用	・保健行政の役割 ・保健サービスの活用		
7	3	医療サービスとその活用	・わが国における医療保険のしくみ ・さまざまな医療機関の役割	b c	ワークシート 発表の様子
8		医薬品の制度とその活用	・医薬品の正しい使用法 ・医薬品の安全性を守る取り組み		
9	3	さまざまな保健活動や社会的対策	・国際機関、民間機関などの保健活動 ・行政機関による社会的対策	a b	3学期末 考查ノート
10		健康に関する環境づくりと社会参加	・健康の保持増進のための環境づくり ・環境づくりへの主体的な参加		

計32時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- ・教材によって、ワークシートやレポート提出を求めています。
- ・学期ごとにノート提出をし、日頃の学習への取り組みを確認します。

7 担当者からの一言

人の一生のなかで高校生の時期は、保健体育の観点からみても大変重要な意味を持っています。体の大きさは成人に近づいていきますが、体力や心の発達という点からは、成人になるまでさらなる充実が期待されるからです。そのような時期にあって、自らの健康はもちろんのこと、これからの社会を担う一員として、健康やスポーツを社会のなかで考えていける力を身に付けることが求められています。健康は生涯を通じて重要な土台となるものです。それが将来にわたって私たちの明るく健康な生活を生み出し、それを維持していく上で欠かせないということを感じ、学習に取り組みましょう。(担当：廣瀬健一)

教科(科目)	保健体育(保健)	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	大修館書店出版『現代高等保健体育』				
副教材等					

1 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

2 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて
 ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用および社会生活における健康の保持増進について理解できるようにし、心身の健康の保持増進を図るための思考力・判断力などの資質や能力を育成する。

②思考力、判断力、表現力の育成に向けて
 健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとする。そして、ホームルーム活動や学校行事などの特別活動および総合的な学習の時間などにおいて「保健」で身に付けた知識および資質や能力を生かして課題解決などに取り組むことができるようにする。

③学びに向かう力の涵養に向けて
 健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育成する。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けてようとしている。	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けてようとしている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の質疑応答の観察 ・課題の実施内容、ノートやレポートの内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・課題の実施内容、ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論への取り組みの観察 ・課題の実施内容、ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析

5 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法
4	1単元 現代社会と健康	3	健康の考え方と成り立ち 私たちの健康のすがた	・さまざまな健康の考え方について ・健康を成り立たせている要因について ・わが国の健康水準の変化とその背景について ・わが国の現在の健康問題について	c	発表の様子

5	6	8	生活習慣病の 予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の種類と要因について 生活習慣病の一次予防、二次予防について 	b	ワークシート
			がんの原因と 予防			
6	7	8	がんの治療と 回復	<ul style="list-style-type: none"> がんのおもな治療法や緩和ケアについて がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について 	c	発表の様子
			運動と健康			
7	8	4	食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> 食事と健康の関係について 健康的な食事のとり方について 	a	1学期末 考查 ノート
			休養・睡眠と 健康			
8	9	4	喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 喫煙者やその周囲の人に起こる害について 喫煙対策について 	b	ワークシート
			飲酒と健康			
9	10	4	薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> 薬物乱用が心身の健康や社会に及ぼす影響 薬物乱用防止のための対策について 	b	ワークシート
			精神疾患の特徴			
10	11	4	精神疾患の予防	<ul style="list-style-type: none"> 精神疾患を予防する方法について 精神疾患の早期発見に必要なことについて 	b	ワークシート
			精神疾患から の回復			
11	12	4	現代の感染症	<ul style="list-style-type: none"> 感染症とは何かについて 新興感染症と再興感染症が流行する要因 	c	発表の様子
			感染症の予防			
12	1	2	性感染症・エイズとその予	<ul style="list-style-type: none"> 性感染症・エイズがほかの感染症と異なる点 性感染症・エイズの予防とその対策について 	a	2学期末 考查 ノート
			健康に関する意思 決定・行動選択			
12	2	2	健康に関する 環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 社会環境の健康への影響について ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりの特徴 	b	発表の様子
			健康に関する 環境づくり			
1	2	3	事故の現状と 発生要因	<ul style="list-style-type: none"> 事故の実態と被害の実態について 事故の発生要因について 	b	ワークシート
			安全な社会の 形成			
2	3	4	交通における 安全	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故防止の取り組みについて 交通事故における責任について 	c	実技の様子
			応急手当の意 義とその基本			
3	3	4	日常的な応急 手当	<ul style="list-style-type: none"> 日常的なけがや熱中症の応急手当の手順 日常的なけがや熱中症の応急手当 	a	3学期末 考查 ノート
			心肺蘇生法			

計32時間 (55分授業)

6 課題・提出物等

- 教材によって、ワークシートやレポート提出を求めることがあります。
- 学期ごとにノート提出をし、日頃の学習への取り組みを確認します。

7 担当者からの一言

人の一生のなかで高校生の時期は、保健体育の観点からみても大変重要な意味を持っています。体の大きさは成人に近づいていきますが、体力や心の発達という点からは、成人になるまでさらなる充実が期待されるからです。そのような時期にあって、自らの健康はもちろんのこと、これからの社会を担う一員として、健康やスポーツを社会のなかで考えていける力を身に付けることが求められています。健康は生涯を通じて重要な土台となるものです。それが将来にわたって私たちの明るく健康な生活を生み出し、それを維持していく上で欠かせないということを感じ、学習に取り組みましょう。(担当：峰村信弥)

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
保健体育	体育	普通科 3学年	2
教科書	[主たる教材] 現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)		
副教材等	[副教材] ステップアップ高校スポーツ2021(大修館書店)		

1 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 指導の重点

- ①知識、技能の習得に向けて
各領域の「技術(技)の名称や行い方」、「体力の高め方」、「課題解決の方法」、「練習や発表の仕方」などの知識の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習する。
- ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて
体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断、体力や健康・安全に関する思考・判断、運動実践につながる態度に関する思考・判断、生涯スポーツの設計に関する思考・判断に加え、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題の解決に重点を置く。
- ③学びに向かう力の涵養に向けて
運動の楽しさや喜びを深く味わい、学習に対する主体的な取り組みを促すことによって、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、卒業後においても、実生活、実社会の中などで継続的なスポーツライフを営むことができるようにする。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習内容(指導内容)	時間	評価方法
4月	体づくり運動	体ほぐしの運動	柔軟性を高める運動、調整力を高める運動 ペアストレッチ など	10	各領域における ・運動特性の理解度 ・技能の習熟度 ・スキルテスト ・安全への思考判断 ・関心、意欲、態度 ・積極性 などを総合的に判断し、評価する。
5月	陸上競技・器械運動 球技選択	体力を高める運動	筋力を高める運動、持久力を高める運動 など	5	
		ゴール型(サッカー) ネット型(テニス) ベースボール型(ソフトボール)	パス、ドリブル、シュート、ゲーム サーブ、ストローク、ボレー、ゲーム キャッチボール、ノック、バッティング、ゲーム	10	
7月	水泳	バタフライ、個人メドレー	ドルフィンキック、うねり動作、プル動作 4泳法で長く泳ぐ	9	
8月	陸上競技 球技選択	長距離走 ネット型(バレーボール、 バドミントン) ゴール型(バスケットボール)	ペースの変化に対応するランニング ペース変化に応じたストライドとピッチ 技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解する。 チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方の工夫。	8 16	
9月					
10月					
11月					
12月					

1月	体育理論		豊かなスポーツライフの設計 生涯スポーツの見方、考え方 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを環境 など	6
----	------	--	---	---

計

64 時間(55分授業)

4 課題・提出物等

人員報告や体育日誌の記入を行う体育当番を輪番で行います。事前に授業の場所や持ち物などの授業連絡をしたり、体育日誌を丁寧に記入することによって、授業の振り返りや次の授業への課題を明確にします。ケガや体調不良等で見学する場合は、見学レポートを毎時間ごとに詳しく記入します。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現) (技能)		(知識・理解)
関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技能(技)の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

以上の観点を踏まえ、

- ・授業の取組(授業態度、授業中の行動観察、学習活動への参加状況など)
- ・記録・ゲーム等の結果分析
- ・スキルテスト などから、総合的に評価します。

6 担当者からの一言

最終学年として、1年次、2年次と積み重ねてきた土台に、各単元の技能や知識、判断能力などをさらに発展させましょう。特に主体性や協調性を高め、個人やグループでの活動を計画的に効率よく進めていくことを期待します。また、球技をはじめとするさまざまな単元を通じて、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力、さらには健康の保持増進のための「実践力」を養っていきましょう。(担当：高橋哲也)

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	大修館書店出版『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店出版『ステップアップ高校スポーツ2022』				

1 学習目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

2 指導の重点

<p>①知識、技能の習得に向けて 各領域の「技術(技)の名称や行い方」、「体力の高め方」、「課題解決の方法」、「練習や発表の仕方」などの知識の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習する。</p> <p>②思考力、判断力、表現力の育成に向けて 体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断、体力や健康・安全に関する思考・判断、運動実践につながる態度に関する思考・判断、生涯スポーツの設計に関する思考・判断に加え、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題の解決に重点を置く。</p> <p>③学びに向かう力の涵養に向けて 運動の楽しさや喜びを深く味わい、学習に対する主体的な取り組みを促すことによって、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、卒業後においても、実生活、実社会の中などで継続的なスポーツライフを営むことができるようにする。</p>

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・技能テストや授業中の観察 ・学習カードの内容の確認 <p>などから、総合的に評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、学習カードの内容 ・レポートや振り返りシートなどの記述の分析 <p>などから、総合的に評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中の取り組む姿勢の観察 ・ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析 ・自己評価や相互評価などの分析 <p>などから、総合的に評価します。</p>

5 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法
4	体づくり運動	10	体ほぐしの運動	柔軟性を高める運動、調整力を高める運動 ペアストレッチ など	c	観察
			体力を高める運動	筋力を高める運動、持久力を高める運動 十高体操 など	b	学習カードの分析
5	球技 ゴール型 ネット型	5	バスケットボール	パス、ドリブル、シュート、簡易ゲーム	a b	技能テスト 学習カード
			バレーボール	対人パス、アタック、ゲーム		
6	器械運動 (男子)	5	マット運動	倒立、倒立前転、前方倒立回転跳び など	a b	技能テスト 学習カード
			跳び箱運動	腕立て前方転回跳び など		
7	陸上競技 (女子)	5	短距離走、投擲	ハードル走、円盤投げ など	a b c	タイム計測 学習カード
			4	新体カテスト	体カテスト 8種目	a
8	水泳	10	クロール50m	浮きやすい姿勢での泳ぎ	a b c	タイム計測 学習カード 観察
			平泳ぎ50m 背泳ぎ25m	ストロークに合わせた呼吸 効果的なローリング動作 足の裏で力強く蹴るキック など		
9	体育理論	6	スポーツにおける技能と体力	・技能と体力の関係について	c	観察
			スポーツにおける技術と戦術	・技能や体力を高めるときに気をつけること ・技能の型の違いや練習のしかた ・用具の改良や技術や戦術、ルールの変化		
10	陸上競技 (男子)	10	短距離走、投擲	ハードル走、円盤投げ など	a b c	タイム計測 学習カード
			器械運動 (女子)	倒立、倒立前転、前方倒立回転跳び など 腕立て前方転回跳び など	a b	技能テスト 学習カード
11	陸上競技	10	長距離走	自己に適したペースのランニング リズムカルな腕振り、走りのリズムに合った呼吸法	a b c	タイム計測 学習カード
			球技 ネット型 (男子)	バレーボール	対人パス(アンダー、オーバー)、簡易ゲーム	a c
12	球技 (女子)	10	ゴール型 ネット型	バスケットボール	a c	技能テスト 学習カード
			武道 (男子)	柔道	受け身、寝技、基本的な足技および手技	a c
1	スキー	16	剣道	礼法、足さばき(すり足、送り足)、基本打ち、 道具の付け方	a b	技能テスト 学習カード
			バドミントン	サービス、ストローク、簡易ゲーム	a c	技能テスト 学習カード
2			アルペンスキー	プルークボーゲン、パラレルターン(大回り、小回り) カービングターン(技能班別授業)	a b	技能テスト 学習カード

計96時間(55分授業)

6 課題・提出物等

- ・教材によって、ワークシートやレポート提出を求めることがあります。
- ・当番になった生徒は、体育日誌の記入提出をしてもらいます。

7 担当者からの一言

「生きる力」の一つである「自分で課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく課題を解決する能力」が育まれることを期待します。また、毎時間のはじめに、伝統の十高体操、補強運動を行います。継続して3年間行うことから何かを学んで欲しいです。秋には、やはり伝統の持久走大会が行われます。自身の持てる力の全力をぶつけて下さい。冬には、雪国ならではのアルペンスキーをスキー場へ移動して行きます。自然の中で、安全に技能の向上を目指しましょう。(担当：廣瀬健一)

教科(科目)	保健体育(体育)	単位数	3単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	大修館書店出版『現代高等保健体育』				
副教材等	大修館書店出版『ステップアップ高校スポーツ2023』				

1 学習目標

<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>

2 指導の重点

<p>①知識、技能の習得に向けて 各領域の「技術(技)の名称や行い方」、「体力の高め方」、「課題解決の方法」、「練習や発表の仕方」などの知識の理解をもとに運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層その理解を深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習する。</p> <p>②思考力、判断力、表現力の育成に向けて 体の動かし方や運動の行い方に関する思考・判断、体力や健康・安全に関する思考・判断、運動実践につながる態度に関する思考・判断、生涯スポーツの設計に関する思考・判断に加え、卒業後に少なくとも一つの運動やスポーツを継続するために、自らの課題に加えて仲間やチームの課題にも視野を広げるとともに、運動を継続するために必要となる課題の解決に重点を置く。</p> <p>③学びに向かう力の涵養に向けて 運動の楽しさや喜びを深く味わい、学習に対する主体的な取り組みを促すことによって、学校の教育活動全体に運動を積極的に取り入れ、卒業後においても、実生活、実社会の中などで継続的なスポーツライフを営むことができるようにする。</p>

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・技能テストや授業中の観察 ・学習カードの内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、学習カードの内容 ・レポートや振り返りシートなどの記述の分析 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の取り組む姿勢の観察 ・ノートやレポート、振り返りシートなどの記述の分析 ・自己評価や相互評価などの分析 などから、総合的に評価します。

5 学習計画

月	単元名	時数	教材名	学習活動(指導内容)	観点	評価方法
4	体づくり運動	10	体ほぐしの運動	柔軟性を高める運動、調整力を高める運動 ペアストレッチ など	c	観察
			体力を高める運動	筋力を高める運動、持久力を高める運動 十高体操 など	b	学習カードの分析
5	器械運動(男子)	10	マット運動	倒立、倒立前転、側方倒立回転跳び など	a	技能テスト 学習カード
			跳び箱運動		b	
6	陸上競技(女子)	10	短距離走	50m走、100m走、リレーなど	a	タイム計測 学習カード
			4		新体カテスト	
7	水泳	10	クロール	浮きやすい姿勢での泳ぎ ストロークに合わせた呼吸 効果的なローリング動作 足の裏で力強く蹴るキック	a	タイム計測 学習カード
			平泳ぎ		c	
8	体育理論	6	スポーツの始まりと変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツがどのように始まったのか ・なぜスポーツが世界中に広まったのか ・運動との比較から文化としてのスポーツの特徴 ・多様なかわり方によるスポーツ文化の変容 ・オリンピズムとオリンピックの価値 ・パラリンピックの価値と意義について 	c	観察 学習カード
			オリンピックとパラリンピックの意義		b	
9	陸上競技(男子)	10	スポーツが経済に及ぼす効果	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの経済活動での役割 ・スポーツにかかわる業種について ・スポーツの高潔さを脅かす要因について 	a	確認テスト
			スポーツの高潔さとドーピング		<ul style="list-style-type: none"> ・ドーピングがなぜスポーツを破壊する行為になるのか ・スポーツにおける環境問題について ・スポーツは環境とどのように調和していけばよいのか 	
10	器械運動(女子)	10	短距離走	50m走、100m走、リレーなど	a	タイム計測 学習カード
			跳び箱運動		b	
11	球技	10	ネット型(男子)	バレーボール 対人パス(アンダー、オーバー)、簡易ゲーム	a	技能テスト 学習カード
			ゴール型(女子)		バスケットボール パス、ドリブル、シュート、簡易ゲーム	
12	武道(男子)	10	柔道	受け身、寝技、基本的な足技および手技 礼法、足さばき(すり足、送り足)、基本打ち、 道具の付け方	a	技能テスト 学習カード
			剣道		b	
1	スキー	16	ネット型(女子)	バレーボール 対人パス(アンダー、オーバー)、簡易ゲーム	a	技能テスト 学習カード
			アルペンスキー		プルークボーゲン、シュテムターン パラレルターン(技能班別授業)	
2					b	

計96時間(55分授業)

6 課題・提出物等

- ・ 教材によって、ワークシートやレポート提出を求めることがあります。
- ・ 当番になった生徒は、体育日誌の記入提出をしてもらいます。

7 担当者からの一言

「生きる力」の一つである「自分で課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく課題を解決する能力」が育まれることを期待します。また、毎時間のはじめに、伝統の十高体操、補強運動を行います。継続して3年間行うことから何かを学んで欲しいです。秋には、やはり伝統の持久走大会が行われます。自身の持てる力の全力をぶつけて下さい。冬には、雪国ならではのアルペンスキーをスキー場へ移動して行います。自然の中で、安全に技能の向上を目指しましょう。(担当：峰村信弥)

教科(科目)	音楽1	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	MOUSA1（教育芸術社）				
副教材等	なし				

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 指導の重点

- ①曲を構成する様々な要素から曲想を把握し、曲に相応しい奏法や表現の工夫を図る。
- ②曲を構成する様々な要素から曲想を把握し、曲に相応しい奏法や表現の工夫を図る思考力、判断力、表現力の育成に向けて 知識、技術の 曲種に応じた発声や、楽器奏法の習熟、基礎的な音楽の諸能力の伸長を図る。
- ③ 学びに向かう力の滋養について合唱・合奏等のアンサンブル活動による、社会適応力・自己分析力・主体的実行力などの育成を図る

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと甘受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について、理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。 	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと甘受したことの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・演奏テストの内容 ・鑑賞シートの内容 ・音楽史・鑑賞レポートの内容 ・演奏シートの内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・演奏テストの内容 ・鑑賞シートの内容 ・音楽史・鑑賞レポートの内容 ・演奏シートの内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・演奏テストの内容 ・音楽史学習シートの内容 ・授業への取り組み などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4 5	歌の楽しみ	10 「A 表現」 「共通事項」	校歌 O Sole mio 野ばら この道	・発声の基礎を学ぶ ・曲種に応じた歌唱法・表現方法を学ぶ	a, b, c	観察・聴取 学習プリント 演奏発表
6	音楽史1	4 B「鑑賞」 「共通事項」	グレゴリオ聖歌 ルネサンス、バロック モーツァルト	・古代～古典派の音楽を学ぶ	a, b	音楽史学習シート
7	楽器奏法の基礎	8 A「表現」 「共通事項」	練習プリント 木星 天国と地獄	・ギターの基本奏法を学ぶ ・リコーダーの基本奏法を学ぶ	b, c	観察・聴取 演奏発表
9 10	ハーモニーの楽しみ アンサンブルの楽しみ	14 A「表現」 「共通事項」	ハナミズキ ザナルカント [®] にて	・2部合唱をする ・リコーダーでアンサンブルをする	a, c	観察・聴取 ワークシート 演奏発表
11	音楽史2	6 B「鑑賞」 「共通事項」	ショパン リスト ドビュッシー	・ロマン派～近代の音楽を学ぶ	a, b	音楽史学習シート
12	弾き語りにも挑戦 ミュージックハルに親しむ	14 A「表現」 「共通事項」	ミッキーマウス 星に願いを	・ギターやキーボードを用い、弾き語りをする ・ミュージックハルでアンサンブルをする	a, b, c	観察・聴取 ワークシート 演奏発表
1 2 3	沖縄の音楽	8 A「表現」 B「鑑賞」 「共通事項」	涙そうそう	・三線の奏法を学ぶ ・三線で弾き語りをする ・沖縄の音楽文化や芸能について理解を深める	a, b, c	観察・聴取 演奏発表

計64時間(55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A「表現」	B「鑑賞」	C「共通事項」
	38 時間	14 時間	12 時間

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

- ・授業での演奏や実技テスト
- ・ワークシート
- ・鑑賞シートや音楽史学習シート

7 担当者からの一言

高等学校の授業では、今までより主体的に学ぶという姿勢を持ってください。特に基本的な音楽表現の基礎となる「歌うこと」に対し、積極的に取り組むことが大切です。学校教育での音楽の授業が高校で最後になる生徒もいます。幅広い音楽の世界を理解するとともに、音楽の基礎的能力を習得し、生涯を通じて音楽を愛好する人になって欲しいと思います。(担当：青柳 秀昭)

教科(科目)	美術 I	単位数	2 単位	学年(コース)	1 学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術 1』				
副教材等	トーリン美術予備校『技法書』				

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ① 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- ② 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- ③ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

- ① 対象を観察して表現する。(対象について見方感じ方を率直に表現できる)
- ② 材料や用具の特性を生かして、適切な表現、独創的な表現を工夫する。
- ③ 作品における表現技法を伸ばす。
- ④ 美術の基本的性格(形式・人生における意義、価値)を理解し、美術の創造活動に取り組む態度を育む。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・作品内容 ・レポート内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品内容 ・レポート内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・作品内容 ・レポートの内容 ・授業への意欲 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4	絵画/彫刻/デザ イン 絵画/彫刻	2「A表現 /鑑賞」 4「A表現」	教科書 デッサン コラージュ	・年間学習計画と高校芸術の心構え ・リエンション ・素描 ・感覚練習	c a b	授業への意欲 作品内容
5	絵画	7 「A表現」	アクリル	・新材料の扱い方 ・芸術作品の鑑賞、構図、配色、描 写方法	a b	作品内容
6	絵画	7 「共通事 項」	アクリル	・名画(風景)を描く ・構図、遠近法など絵画秩序 ・材料の扱い方	b c	作品内容
7	絵画	6 「共通事 項」	アクリル	・名画(静物)を描く、構図、空間の 意識、全体の色調	b c	作品内容
8 9	デザイン	6 「B鑑賞」	アクリル DVDの鑑 賞	・ポスターの種類、歴史を調べる ・新しい発見 ・表現方法 ・構成	a b	レポート内容
10	デザイン	6 「共通事 項」	アクリル	・パネル張りの技術の習得 ・発想(目的を伝えるイラスト) ・構図	b c	作品内容
11	デザイン	6 「A表現」	アクリル	・表現方法 ・発想 ・抽象表現方法 ・構成	a b	作品内容
12	彫刻	6 「A表現」	粘土	・はにわの歴史 ・発想 ・構図 ・立体の意識	a b	作品内容
1	彫刻	6 「共通事 項」	粘土	・エスキース ・主題と展開 ・技法の工夫	b c	作品内容
2	絵画	6 「A表現」	きり絵	・白黒の世界(表現の可能性) ・立体の把握と色彩効果の表現、技 能	a b	作品内容
3	鑑賞	2 「B鑑賞」	DVDの鑑 賞	・図書館で画集の鑑賞 ・DVDの鑑賞 ・レポート作成	b c	レポート内容

計64時間(55分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「表現」 31 時間	B 「鑑賞」 8 時間	「共通事項」 25 時間
-----------------	-----------------	----------------	-----------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

単元ごとにエスキース、作品、またはレポート(作品のねらい、出来栄え、反省点)を提出。学期ごとにスケッチブックを提出。

7 担当者からの一言

様々な作品と出会い、鑑賞し創造しながら美術に触れることを楽しみ、自分がどんなものを作りたいか常に思考し、完成まで努力し、そのことを通じ、美術の意義や価値を理解してほしいと思います。

(担当：藤岡 一之)

教科(科目)	書道 I	単位数	2単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	光村図書出版『書 I』				
副教材等	なし				

1 学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の高さを味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 指導の重点

- ①古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成を学び、書の表現の方法や形式、多様性などを理解させる。
- ②意図に基づいて構想し表現できるように育む。
- ③書の伝統と文化に親しみ、書の高さや美しさを感じ、捉えたりすることができるように育む。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫している。 ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の高さを味わい捉えたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解しようとしている。 ・書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書の高さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫している。 ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の高さを味わい捉えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・制作した作品の内容 ・制作カードの内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・制作した作品の内容 ・制作カードの内容 ・鑑賞カードの内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・制作した作品の内容 ・制作カードの内容 ・鑑賞カードの内容 ・授業の取り組み などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の観 点	評価方法
4	書写から書道へ	1 「B鑑賞」		<ul style="list-style-type: none"> 年間学習計画 高校芸術の心構え 	a	授業の取り組み
5	漢字の書(楷書) 「唐の四大家」の 書	8 「共通事 項」	「孔子廟堂碑」 「九成宮醴泉銘」 「顔氏家廟碑」 「雁塔聖教序」	<ul style="list-style-type: none"> 四大家の書風の違い 筆者について 臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 	a b	作品内容 制作カードの内 容
6	表現を広げよう 「龍門石窟」の書	2 「共通事 項」	「牛欄造像記」	<ul style="list-style-type: none"> 臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 唐代の楷書との違い 	a b	作品内容 制作カードの内 容
7	楷書の創作	10 「A表現」	自選自句二文字作 品制作(半切 1/2)	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた古典を生かし、表現を構想し、自らの意図を実現するため工夫し、制作する。 相互批評する。 	b c	作品内容 制作カード・鑑賞 カードの内容 授業の取り組み
8						
9	楷書の創作	6 「A表現」	漢字五文字作品制 作(半紙)	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた古典を生かし、表現を構想し、自らの意図を実現するため工夫し、制作する。 	b c	作品内容 授業の取り組み
10	篆刻	8 「共通事 項」	姓名印の制作	<ul style="list-style-type: none"> 印の使い方や種類を知り、篆刻に必要な用具と使い方を理解する。 文字の配置や刻法に気を付けながら篆書の姓名印を刻す。 	b c	作品内容 制作カードの内 容 授業の取り組み
11	漢字の書(行書)	4 「共通事 項」	「蘭亭序」 「風信帖」	<ul style="list-style-type: none"> 筆者について 臨書を通して、字形や線質、点画の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。 	a b	作品内容 制作カードの内 容 授業の取り組み
	漢字の書(行書)	1 「B鑑賞」	「三筆・三跡の書」	<ul style="list-style-type: none"> 平安時代の書作品について鑑賞する。 	a	レポートの内容
	行書の創作	4 「A表現」	自選自句一文字作 品制作(半切 1/3)	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた古典を生かし、表現を構想し、自らの意図を実現するため工夫し、制作する。 	b c	作品内容 制作カードの内 容 授業の取り組み

12	仮名の書	8 「共通事項」	「蓬莱切」 「高野切第三種」	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立と種類について学ぶ。 ・仮名の基本的な知識を理解し、筆遣いを習得する。 	a b	作品内容 制作カードの内容 授業の取り組み
1	仮名の創作(散らし書き)	4 「A表現」	自選自句(半紙)	<ul style="list-style-type: none"> ・行書きと散らし書きの違いを理解する。 ・古典を鑑賞し、散らし書きの構成方法を知り、その技法を理解する。 ・仮名の基礎をもとに、紙面構成を考えながら制作する。 	b c	作品内容 授業の取り組み
2 3	漢字仮名交じりの書	8 「A表現」	自選自句(半切1/3)	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字の書」・「仮名の書」の学習を通して得た知識・技能を十分生かし身近な語句や詩文を使って自己表現する。 ・相互批評する。 	b c	作品内容 制作カード・鑑賞カードの内容 授業の取り組み 発表の様子

計 64 時間 (55 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	A 「表現」 32 時間	B 「鑑賞」 2 時間	C 「共通事項」 30 時間
-----------------	-----------------	----------------	-------------------

※ 増単している場合は、増単した割合に応じた授業時数を確保すること。

6 課題・提出物等

制作した作品、制作カード、鑑賞カード

7 担当者からの一言

小・中学校での国語の書写とは一転、芸術科「書道」ではさまざまな表現力を身に付け、鑑賞の能力を伸ばすための学習を計画しています。まずは書の古典を学び、先人の思いを追体験すること(臨書)で、次段階の創作に発展させていきます。より多くの書表現に触れながら、書が自己表現の一つであることを知り、より深く、豊かな感性を養っていくことが大きな目標です。

(担当：柳 美和)

教科(科目)	英語(英語コミュニケーションI)	単位数	4単位	学年(コース)	1学年
使用教科書	増進堂『FLEX ENGLISH COMMUNICATION I』				
副教材等	増進堂『FLEX ENGLISH COMMUNICATION I 予習&授業ノート』、第一学習社『Active Practical Reading』、いっぴいな書店『英単語・熟語Bricks 1』				

1 学習目標

<p>英語による言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できるようになる。</p> <p>(2) 日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えをなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができるようになる。</p> <p>(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。</p>
--

2 指導の重点

<p>希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 自分の英語学習を計画立て、実行し、振り返りながら自己の学習を調整する機会を設ける。</p> <p>② 表現活動を授業の中心に据えることで、コミュニケーションツールとして英語を捉えられるようにし、各自の目標や興味に応じた学習目標を設定できるようにする。</p> <p>③ 理解や表現において必要となる基礎・基本を初期段階から繰り返し学習する。</p>
--

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 A (40%程度)	思考・判断・表現 B (40%程度)	主体的に学習に取り組む態度 C (20%程度)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 知識を問うペーパーテスト 考査でのリスニング問題 (論表考査にて) パフォーマンステスト などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> 表現力を問うペーパーテスト 考査でのリスニング問題 (論表考査にて) パフォーマンステスト 授業中の発言、言語活動への取組の観察 などから、評価します。 	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> My English Project、振り返りシートの記述の分析 小テスト スタディーサプリ English、FLEX Festa 等の授業外学習への取り組み 授業中の発言、言語活動への取組の観察 などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数	主な学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	Reading Skill 2, 3	4	<ul style="list-style-type: none"> 授業ガイダンス スタディーサプリ、FLEX Festa, Bricks(LMS)使用説明 My Project Sheet ①記入 (計画) 文型と基本的な品詞の確認 	C A	提出→分析 観察、中間考査

5			・身近な話題でスピーキング (やり取り)	B	観察、5月パフオテ
	Starting Lesson	2	・文型と基本的な品詞を英文の中で確認 ・英和辞典の使い方確認 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・日常的な話題でスピーキング (やり取り)	A A B B	観察、中間考査 観察、中間考査 観察、中間考査 観察、5月パフオテ
	Lesson 1	8	・助動詞、to 不定詞の確認 ・日本語要約活動 ・音読インプット活動 ・読んだ本文に対する意見をスピーキング、ライティング ・日常的な話題でスピーキング (やり取り)	A B A B B	観察、中間考査 観察、中間考査 観察、中間考査 観察、5月パフオテ 観察、5月パフオテ
	中間考査	1	【考査内容 (予定)】品詞・文型確認問題、助動詞・to 不定詞確認問題、教科書で出た表現確認問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
6	パフォーマンステスト (やり取り)	2	【試験内容 (予定)】ペアで身近な内容について即興で話し合う。	B	
	Lesson 2	14	・振り返りシート記入 (学習の進捗状況確認) ・語彙力測定テスト ・動名詞、間接疑問文の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・日常的な話題でスピーキング (やり取り)	C C A B C B B	提出→分析 小テスト 観察、期末考査 観察、期末考査 小テスト 観察、中間考査 観察
	期末考査	1	【考査内容 (予定)】品詞・文型確認問題、動名詞・間接疑問文確認問題、教科書で出た表現確認問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
7	Lesson 3	4	・My Project Sheet ①記入 (振り返り) ・My Project Sheet ②記入 (計画) ・語彙力測定テスト ・後置修飾、現在完了形の確認	C C C A	提出→分析 提出→分析 小テスト 観察、中間考査
	Lesson 4	12	・関係代名詞、過去完了形の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・日常的な話題でスピーキング (やり取り)	A B C B B	観察、中間考査 観察、中間考査 小テスト 観察、中間考査 観察
8					
9	パフォーマンステスト (やり取り)	3	【試験内容 (予定)】本文の登場人物にインタビューするという設定でのペアでのやり取り。テスト後に振り返りシート記入	B	
	中間考査	1	【考査内容 (予定)】品詞・文型確認問題、関係代名詞・過去完了形確認問題、教科書で出た表現確認問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
10	Lesson 5	14	・振り返りシート記入 (学習の進捗状況確認) ・語彙力測定テスト ・使役動詞・形式主語の it の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング	C C A B C B	提出→分析 小テスト 観察、期末考査 観察、期末考査 小テスト 観察、期末考査
11					

			・社会的な話題でスピーキング (やり取り)	B	観察
	Lesson 6	6	・関係代名詞 what、強調構文の確認 ・リスニングによる内容理解活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・社会的な話題でスピーキング (やり取り)	A A C B	観察、期末考査 観察、期末考査 小テスト 観察、期末考査
	期末考査	1	【考査内容 (予定)】品詞・文型確認問題、使役動詞・形式主語・関係代名詞 what・強調構文確認問題、教科書で出た表現確認問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
12	Lesson 8	6	・My Project Sheet ②記入 (振り返り) ・My Project Sheet ③記入 (計画) ・語彙力測定テスト ・仮定法の確認 ・Lesson 3 の本文を使った読解テスト	C C C A A	提出→分析 提出→分析 小テスト 観察、学年末考査 テスト形式
	Lesson 7	14	・関係代名詞の非制限用法、関係副詞の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・社会的な話題でスピーキング (やり取り)	A B C B B	観察、学年末考査 観察、学年末考査 小テスト 観察、学年末考査 観察
2	パフォーマンステスト (発表)	3	【試験内容 (予定)】SDGs に沿った活動の紹介プレゼンテーションをグループで行う。	B	
	Lesson 9	10	・知覚動詞、分詞構文の確認 ・日本語要約活動 ・本文の内容を自分の言葉で話す活動 ・本文に関する内容でライティング、スピーキング ・社会的な話題でスピーキング (やり取り)	A B C B B	観察、学年末考査 観察、学年末考査 小テスト 観察、学年末考査 観察
	学年末考査	1	【考査内容 (予定)】品詞・文型確認問題、仮定法・関係代名詞非制限用法・関係副詞・知覚動詞・分詞構文確認問題、教科書で出た表現確認問題、日本語で要約する問題、英文の内容について自分の意見を書く問題	A B	
2 3	Lesson 10	5	・My Project Sheet ③記入 (振り返り) ・語彙力測定テスト ・前置詞+関係代名詞、完了進行形の確認	C C A	提出→分析 小テスト 観察
	調整授業数	16			

計 128 時間 (55 分授業)

6 課題・提出物等

- ・スタディーサプリ/FLEX Festa : 取り組み状況に応じて評価します。
- ・My English Project や振り返りシート : 考査返却時等に記入して提出します。
- ・語彙力測定テスト Bricks 1 : 日程・範囲は別途指示します。
- ・週末課題 Active Practical Reading : 詳細は別途指示します。取り組み状況に応じて評価します。
- ・その他、サイドリーダーを読んでレポートを提出するなど、自主英語学習に取り組んだら加点評価をします。

7 担当者からの一言

“難しい英語の文章を読んだ後、英語で意見交換し合う” ことができる自分になればワクワクしませんか。十日町高校英語科は授業を通して自分自身を英語で表現する力を養い、将来英語を使わなければいけない環境におかれても対応できる英語力、コミュニケーション能力を身に付けてほしいと考えています。そのために高校3年間では基礎・基本を大切にしながら、各自の目標、興味に応じて高度な英語に挑戦していきましょう。また、自分の学習を調整し、自分にとって最適な学習を継続して行える学習者になれるよう支援します。素敵な自分を目指し、共に学びましょう。(担当 : 神田貴代子)

教科(科目)	家庭 (家庭基礎)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	実教出版 気づく力 築く未来				
副教材等	2023 最新 生活ハンドブック資料&成分表				

1 学習目標

生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

(1)人の一生と家族・家庭および福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活に主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それに係わる技能を身につけるようにする。

(2)家庭や地域および社会における課題を見だし、解決策を考える。それらの実践につなげ、評価・考察し表現することができるようにする。

(3)様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会への参画と、自らの生活の充実向上を図ろうとする態度を養う。

2 指導の重点

高等学校在学時に成年年齢を迎える生徒が多いことから、

①成年に伴い、社会参画への責任や自覚が一層求められます。社会制度を理解し、主体的に実践する態度を育てます。

②自ら生活上の課題から、地域社会・環境への関心を深め、SDGsの取り組みにもつなげていきます。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために、必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を身につけている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に生活の向上を図るために実践しようとしている。

4 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・生活を主体的に営むために、人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、必要な基礎的な知識を理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけようとしている。	・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、問題の解決に主体的に取り組んだり、振り返ったりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・ワークシート、実習レポートなどの提出物の内容の確認 ・提出作品の内容の確認などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・ワークシート、実習レポートなどの提出物の内容の確認 ・授業中の発言、課題や作業への取り組みの観察 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシート、実習レポートなどの提出物の内容の確認 ・授業中の発言、課題や実習への取り組みの観察 ・振り返りシートの記述の分析などから、評価します。

5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価の 観点	評価方法
4	A編 1 生活設計	2	・自分の将来を見通そう	・人の一生と生涯発達 ・ライフイベントと人の生き方 ・目標と意志決定	abc	・ワークシート (記述の点検・確認) ・視聴記録提出 (記述の点検・確認)
5	A編 2 青年期と家族	6	・これからの人生に向かって ・家族家庭とは何だろうか？ ・これからの家庭生活と社会	・家族を築くこと、法律と家族・家庭 ・現在の家族を取り巻く状況 ・男女共同参画社会		
5	B編 1 食生活	16	・「食べる」ということ ・私たちが食べていること ・安全に食べるために ・健康に食べるために ・おいしく食べるために ・ずっと食事を食べるために	・私たちの食事、ライフステージと食事 ・現代の食生活、食品に含まれる栄養素 ・栄養素の分類、栄養素と食品 ・食品の選択、食中毒と添加物 ・私たちの食生活と環境 調理実習 年間3回 予定	abc	・実習の取り組み (行動の確認) ・実習記録 (記述の点検・確認) 定期考査の分析
9	B編 2 衣生活	12	・衣服のはたらき ・衣服ができるまで ・衣服の計画と管理 ・これからの衣生活	・衣服と私たち、衣服の機能・衣服と人の一生 ・衣服を選ぶ、衣服の手入れ・保管 ・環境にやさしい衣生活、人にやさしい衣服 ・衣生活実習(生活に役立つ小物製作)	abc	・ワークシート (記述の点検・確認) ・視聴記録提出 (記述の点検・確認) ・実習の取り組み (行動の確認) ・実習記録 (記述の点検・確認) 定期考査の分析
10						
11	A編 3 保育	8	・子どもの成長を見つめる ・子どもの生活と保育 ・これからの子育て環境	・子どもの成長と保育、発達と発育 ・人とのかかわりと心の発達 ・生活習慣と人とのかかわり ・子どもの生活と健康・安全 ・子育てを支えるしくみ・子どもの権利と福祉		
12	A編 4 高齢期	4	・高齢期ってどういう時期？ ・高齢化する日本を生きる	・高齢期とは・高齢期の心身の変化 ・高齢化の現状、超高齢社会の課題		
	A編5 共生社会	1	・共生とは何か？	・共生社会とは何か・ノーマライゼーション		
1	C編1 経済計画	11	・家庭とお金の将来を考えよう	・家計と社会の関わり	abc	・ワークシート (記述の点検・確認) ・視聴記録提出 (記述の点検・確認) ・実習の取り組み (行動の確認) ・実習記録 (記述の点検・確認)
2	C編2 消費生活		・何をどうやって買う	・私たちの消費生活		
	C編3 環境		・かしこい消費者になろう ・環境問題を考える ・私たちにできること	・契約の重要性・消費者信用のしくみ ・消費者問題の現状と課題 ・消費者保護のしくみ・消費者の権利と責任 ・様々な環境問題・持続可能な消費		
	B編 3 住生活	4	・「住まい」とは ・安全/快適な住まい ・住まいの課題と未来の暮らし	・安全/快適な住まい ・住まいの課題と未来の暮らし	abc	定期考査の分析
夏季休業中課題予定 ホームプロジェクトに取り組もう						

計64時間(55分授業)

6 課題・提出物等

- ・定期考査実施
- ・授業ワークシート
- ・視聴記録
- ・課題の製作
- ・調理実習記録

7 担当者からの一言

私たちを取り巻く環境は多様化しています。それにともない確かな情報を自ら選択する力・リテラシーがますます必要になりました。自分自身が主体的に取り組み発信する力を身につけることを目指しています。たくさんの学習内容を予定していますが、生徒の皆さんの理解を深め定着していけるよう工夫します。

(担当：高橋貴子)

教科名	科目名	学科・学年・類型	単位数
情報	情報 I	普通科 2 学年	2 単位
教科書	[主たる教材] 情報 1 Next (数研出版)		
副教材等	[副教材] 情報 I Next サポートノート (数研出版)		

1 学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 指導の重点

- (1) 情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法に着目し、情報社会の問題を発見・解決する。
- (2) メディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える。
- (3) コンピュータで情報が処理される仕組みに着目し、プログラミングやシミュレーションによって問題を発見・解決する。
- (4) 情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目し、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題を発見・解決する

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	・事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	様々な事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・レポート ・課題作品 ・発表の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期テスト ・レポート ・課題作品 ・発表の内容 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポート ・課題作品 ・発表の内容 ・授業の取組 などから評価します。

5 学習計画

月	学習内容	時間 配当	主な学習内容・活動	評価方法
4	情報社会とメディア	4	・情報とは何か、情報の信ぴょう性とは何かを理解する。 ・情報によって適した表現形式(メディア)が異なることを理解する。 ・情報や情報技術を活用して問題の発見・解決する方法を身に付ける。	a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組

5	情報社会における法とセキュリティ	7	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に関する法規や制度、個人情報保護の重要性や活用、肖像権・プライバシー権について理解する。 ・ユーザ認証、アクセス制御など、情報セキュリティを高める技術やその重要性について理解する。 ・情報セキュリティを脅かす事例やコンピュータウイルス及びその対策の具体例を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
	情報技術が社会に及ぼす影響	4	<ul style="list-style-type: none"> ・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなど、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会や生活の変化について理解する。 ・インターネット上のさまざまなトラブルを学び、情報技術の適切な活用について理解する。 ・情報技術を効果的に活用し、社会をよりよくしていく方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
7	コンピュータのしくみ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの基本的なしくみとはたらき、CPU、メモリ、補助記憶装置、入出力装置、OS、ファイルの基礎について理解する。 ・コンピュータの内部における数の表現方法と計算に関する限界について理解する。 ・コンピュータで扱われる情報の特徴やコンピュータの能力との関係について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
	プログラミング	7	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付ける。 ・プログラミングの基本的な考え方やコンピュータを活用する方法を理解する。 ・プログラミングの技能を身に付けさせるとともに、プログラムを評価し改善する活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
9	モデル化とシミュレーション	4	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル化やシミュレーションの考え方・手順を理解させ、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法を理解する。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行わせ、その結果から問題の解決方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
	ネットワークのしくみ	7	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルなど、インターネットでの通信の原理について理解する。 ・パケット通信の原理とメリットについて理解する。 ・IP アドレス、ドメイン名、URL などによるインターネットでの電子メール・ウェブ閲覧、暗号の原理など、情報通信ネットワークのしくみや情報セキュリティを確保するための方法について理解する。 ・目的や状況に応じて、情報セキュリティを確保する方法について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
10	データベース	3	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースの概念や、データベース管理システムの機能について理解する。 ・ネットワークを介して情報システムがサービスを提供しているしくみや特徴を理解するとともに、それらが社会生活に果たす役割と影響を理解する。 ・情報システムが提供しているサービスを効果的に活用することについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
	データの分析	6	<ul style="list-style-type: none"> ・データを分析する際に必要となる、データの形式、データの収集方法、データの種類について理解するとともに、それらを扱いデータを分析する技能を身に付ける。 ・数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行わせ、結果の表現方法を考えるとともに、それらを評価し改善する活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
11	情報のデジタル表現	6	<ul style="list-style-type: none"> ・アナログとデジタルの違い、デジタル情報の特徴やメリットを理解する。 ・ビットの概念を理解させ、それを表現するための 2 進法や 16 進法、さらに 2 進法を用いた数のデジタル表現、文字のデジタル表現を理解する。 ・音、画像、動画のデジタル化の原理を理解する。 ・デジタル情報ならではのデータ圧縮の原理と具体例について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組

2	コミュニケーション手段の発展と特徴	3	<ul style="list-style-type: none"> ・古代からの技術的な進歩を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解する。 ・情報を発信するときのメディアの性質と特徴を理解させ、目的や状況に応じて適切なメディアの選択ができる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
	情報デザイン	3	<ul style="list-style-type: none"> ・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解させるとともに、情報を抽象化・構造化・可視化する方法や表現を工夫する技能を身に付ける。 ・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> a 定期テスト、レポート、課題作品 b 定期テスト、レポート、課題作品 c レポート、課題作品、授業の取組
3	プレゼンテーション	6	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの流れと注意点を理解させるとともに、効果的なコミュニケーションのために情報デザインの考え方や方法を理解する。 ・プレゼンテーションソフトウェアの使い方や表現する技能を身に付けさせるとともに、その制作物を評価し改善する活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> a レポート、課題作品、発表 b レポート、課題作品、発表 c レポート、課題作品、発表、授業の取組

計 64 時間 (55 分授業)

6 課題・提出物等

- ・授業中に指示する課題について、レポートや作品の提出を求めます。
- ・3学期に、それまで学んだ知識、技能等を活用して、グループでのプレゼンテーションを実施します。

7 担当者からの一言

情報社会は急速に変化し、すさまじいスピードで進展しています。そのような環境で生きていく皆さんは、今後、情報社会で生活するために必要最低限の知識と技能を身につけること、情報機器を用いて自分の考え等を表現する力を身につけることが課題となります。「社会と情報」では、パソコンに触れる時間をできるだけ多く確保しながら、情報社会に積極的に参画できる資質、能力を身につけます。